決算説明会資料

2013年3月期　第2四半期

株式会社ニレコ

証券コード：6863

目　次

2013年（平成25年）3月期第2四半期決算の概要

P．2～5

2013年3月期の見通し

P．6～11

セグメント別の実績と見通し

P．12～13

資本政策、株主還元

P．14

補足説明資料

P．15～33

第2四半期実績と通期展望　P．16～22

中期3ヵ年計画の取組状況　P．23～28

会社概要　P．29～33

2013年3月期第2四半期
決算の概要

2013年3月期第2四半期

～決算の概要～

- 受注高は前年同期比6.0%増。プロセス事業の受注高が落ち込み、検査機事業が農業関係を中心に受注高を大きく伸ばした。
- 売上高は前年同期比3.5%減。検査機事業において受注は好調だったが、検収が第3四半期以降にズレ込んだことにより売上高が伸びなかった。
- 営業利益は売上高が目標に届かなかったこと等により、119百万円となり営業利益率は3．6%で前年同期より0．2ポイント・ダウン

■期首に予想した前提についての変化

●期首に予想した前提

1. 中国をはじめとした新興アジアの成長は鈍化するものの継続する。
2. 国内経済は震災の復興需要で景気は回復する。
3. スマートフォンやタブレットPCやEV関連の材料設備投資が伸びる。

●変化

① 欧州の経済低迷の影響が中国や韓国の生産動向に影響し、成長に力強さがなくなった。
② 日中関係が冷却化した影響が、経済にも及び中国向けの生産やサービスが落ち込み始めた。
③ 中国の新たな鉄鋼設備投資計画の動き出しが止まった。
④ 中国での生産及び中国向け輸出が落ち込む気配が濃厚となり、国内景気も影響を受け始めた。
⑤ スマートフォン等の中小型パネルの設備投資は、期首のペースが続かず、夏には落ち込みを見せた。

損益計算書の概要

（単位：百万円）

	当第２四半期（12/9）		前第２四半期（11/9）		増　減	
	金額	比率	金額	比率	金額	伸率
売上高	3,356	100.0%	3,478	100.0%	△122	△3.5%
売上総利益	1,186	35.4%	1,171	33.7%	15	1.3%
販売費及び一般管理費	1,067	31.8%	1,037	29.8%	29	2.9%
営業利益	119	3.6%	133	3.8%	△14	△10.9%
経常利益	153	4.6%	163	4.7%	△9	△5.9%
当期純利益	102	3.1%	44	1.3%	58	132.6%
設備投資額	38	1.1%	25	0.7%	12	50.3%
減価償却費	70	2.1%	68	2.0%	1	2.5%
研究開発費	279	8.3%	316	9.1%	△37	△11.7%
一株当り利益	14円3銭		6円4銭			

6

セグメント別受注及び売上の状況

（単位：百万円）

	受注高		売上高		受注残高	
	金額	伸び率	金額	伸び率	金額	伸び率
プロセス事業	1,046	△22.0%	1,159	7.5%	870	△40.7%
ウェブ事業	1,581	0.3%	1,570	△5.2%	676	9.2%
検査機事業	1,267	66.5%	613	△15.7%	1,035	79.6%
その他	15	15.5%	12	△18.1%	5	111.9%
合計	3,911	5.9%	3,356	△3.5%	2,587	△2.9%

貸借対照表の概要

貸借対照表の概要

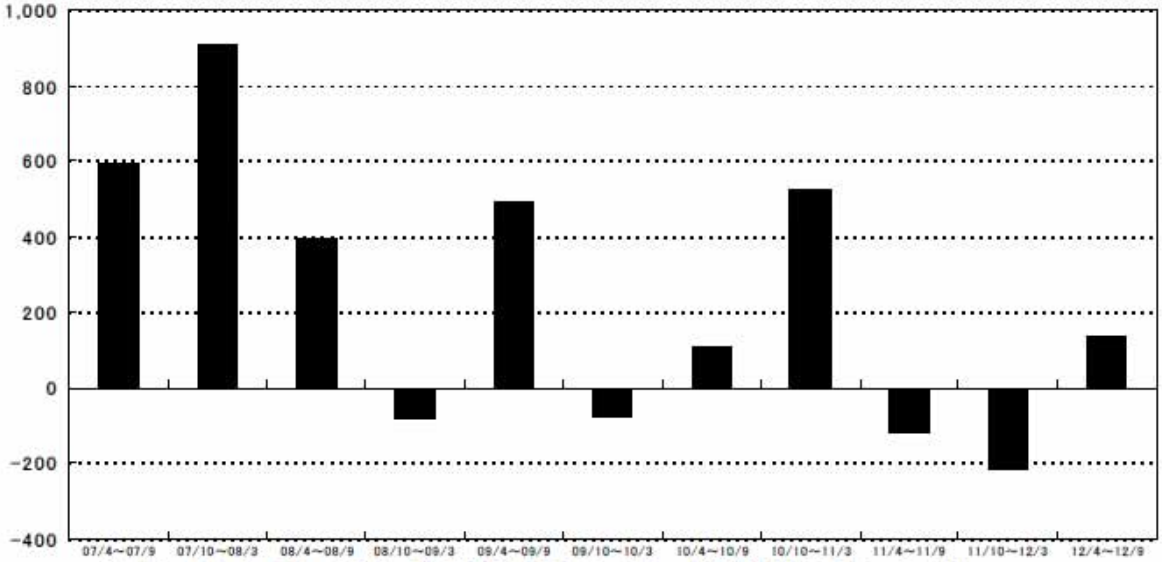
（単位：百万円）

	当13/3第2四半期末		12/3期末		増減	備考
	金額(1)	構成比	金額(2)	構成比	(1)-(2)	
現金預金	3,273	27.9%	3,030	26.1%	243	
売上債権	2,743	23.4%	2,922	25.2%	△179	多額だった3月末の売上債権の回収による
有価証券	89	0.8%	90	0.8%	△1	
棚卸資産	2,437	20.8%	2,218	19.1%	219	受注残の増加による製品の増加
その他流動資産	456	3.9%	441	3.8%	14	
流動資産計	9,001	76.8%	8,703	75.0%	298	
有形固定資産	1,264	10.8%	1,286	11.1%	△22	
無形固定資産	90	0.8%	72	0.6%	18	
投資その他の資産	1,366	11.7%	1,540	13.3%	△173	投資有価証券評価損
固定資産計	2,721	23.2%	2,899	25.0%	△177	
資産合計	11,722	100.0%	11,603	100.0%	119	
買入債務	345	3.0%	285	2.5%	60	
その他流動負債	832	7.1%	819	7.0%	12	
流動負債計	1,178	10.1%	1,105	9.5%	73	
固定負債計	270	2.3%	126	1.1%	144	従業員持株ESOPに伴う借入
負債合計	1,448	12.4%	1,231	10.6%	217	
純資産合計	10,273	87.6%	10,371	89.4%	△97	有価証券評価損、配当金の支払
負債純資産合計	11,722	100.0%	11,603	100.0%	119	

キャッシュフロー計算書の概要

四半期純利益の計上や売上債権の減少等により営業キャッシュフローが増加し、投資活動によるキャッシュフローは減少した

（単位：百万円）



注）フリーキャッシュフロー（FCF）＝営業活動によるキャシュフロー＋投資活動によるキャッシュフロー

2013年3月期の見通し

今期業績見通し

2013年3月期

～今期見込みのポイント～

- 検査機事業は受注残の納入予定により通期売上に目途。
- ウェブ事業は中小型パネルの設備動向が10月より持ち直しの傾向。新製品の投入と営業の訪問数向上により、短期受注獲得増を図る。
- 第3四半期以降、プロセス事業の受注環境が厳しくなるが、各ユーザーに新たに生まれるニーズを捉えることに注力。

今期業績見通し

（単位：百万円）

	今期計画（13/3）		前期実績（12/3）		増　減	
	金額	比率（%）	金額	比率（%）	金額	伸率（%）
売上高	7,350	100.0	7,272	100.0	78	1.1
売上総利益	2,350	32.0	2,492	34.3	△142	△5.7
販売費及び一般管理費	2,000	27.2	2,162	29.7	△162	△7.5
営業利益	350	4.8	329	4.5	21	6.4
経常利益	350	4.8	374	5.2	△24	△6.4
当期純利益	280	3.8	250	3.5	30	12.0
設備投資	100	1.4	121	1.7	△21	△17.4
減価償却費	160	2.2	144	2.0	16	11.1
研究開発費	700	9.5	631	8.7	69	10.9
一株当り利益	38.14	—	34.26	—	—	—

12

受注及び販売の見通し

（単位：百万円）

	受注高		売上高		受注残高	
	金額	伸び率	金額	伸び率	金額	伸び率
プロセス事業	2,350	3.3%	2,400	△3.8%	900	△8.5%
ウェブ事業	3,350	4.7%	3,350	3.6%	650	0%
検査機事業	1,700	26.1%	1,600	6.0%	500	31.6%
合計	7,400	8.0%	7,350	1.1%	2,050	0.9%

今後の重点施策～農水産業関係

- 前年度農業関連予算が年度をまたいで遅れて実行され、第2四半期で年間受注目標に近い受注額を一気に獲得した。
- 中国・米国向けに選果用センサーの海外展開を進めている。米国選果向けに検査装置1台の貸与が決定した。これを拡販に結び付けたい。
- 震災復興の一環として、東北の漁港に水揚げした魚の自動選別ラインの設置を提案している。魚の選別センサーの引合いは既に出てきており、開発を進める。

今後の重点施策～中小型パネル、電池関係

- 高機能フィルムなど部材の設備投資動向は夏場にかけて停滞した。電池関係の動きは鈍いが、中小型パネル向けは10月以降設備投資の動きが再開し、この動きが続くと見ている。
- 中小型パネルやリチウムイオン二次電池用の銅箔の生産設備計画は堅調であり、ウェブ事業、検査機事業で注力し、売上を伸ばす。
- 無地検査装置等は高速高精細対応に応えるための新型機を来期より販売開始する。
- リチウムイオン二次電池の部材の設備投資計画はあるが牽引役のEVの普及が、インフラ整備の遅れや航続距離の短さがネックとなり、いまひとつ鈍くなっている。

今後の重点施策～海外展開

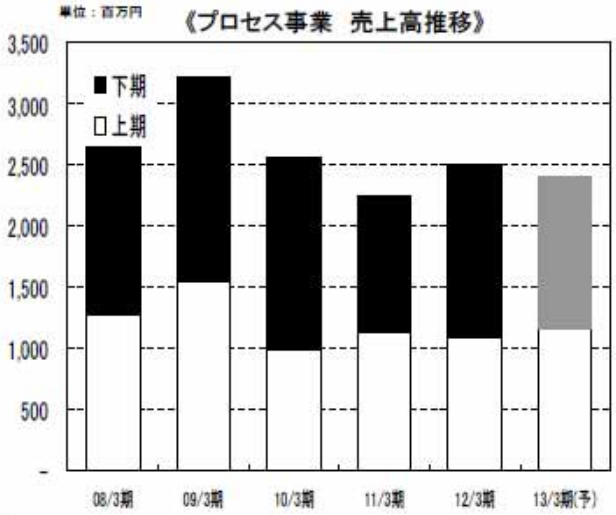
- 海外子会社2社（中国と台湾）の相互協力による現地ニーズに合った製品の現地生産現地販売体制を推進する。
- 検査機事業は米国・中国市場向け選果センサーの拡販を行う。
- プロセス事業は渦流式溶鋼レベル計等の欧州拡販を行う。新興アジア諸国の成長の新たな段階に向けて、新製品を揃える。

セグメント別の実績と見通し

セグメント別の業績と見込み（プロセス事業）

業績	国内外とも新規需要は休止状態が続いた。再活性化には未だ時間がかかる。一方、サービス関係や中小規模案件を細かく獲得。

受注が前年同期に対して22．0%減、売上が7．5%増



（単位：百万円）

売上高	1，159
受注高	1，046
セグメント利益	116

《ユーザー業種別　売上構成比》

展望	今期中の新規設備投資再開は期待できないので、前半の活動を継続すると同時に将来の設備投資再開に備える。過流式溶鋼レベル計の欧州でのPRは継続

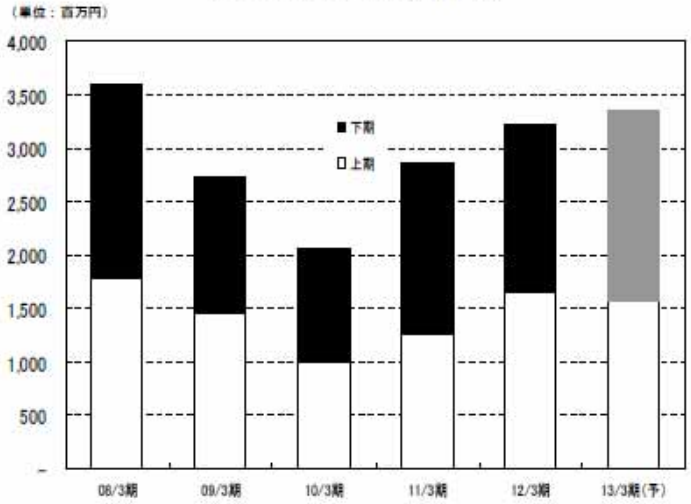
19

セグメント別の業績と見込み（ウェブ事業）

業績	スマートフォン等の中小型パネル関係のフィルム、電子部品関係中心に堅実に実績をあげた。このペースを続ける。

受注は前年同期に対し0．3%増、売上は5．2%減

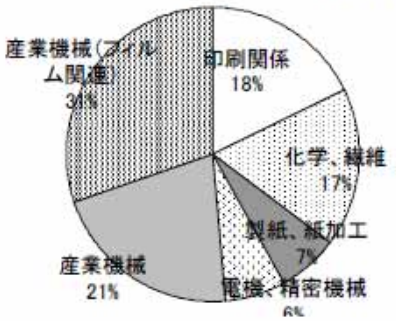
《ウェブ事業　売上高推移》



（単位：百万円）

売上高	1,570
受注高	1,581
セグメント利益	227

《ユーザー業界別　売上構成比》



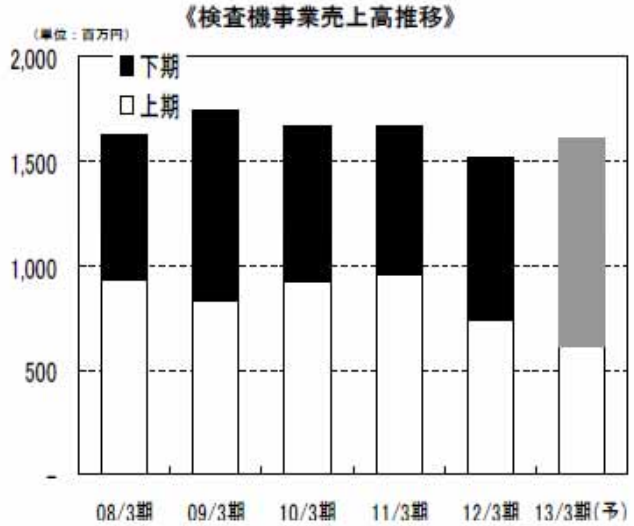
展望	スマートフォン関係は細かな変動はあるが、ある程度の受注は確保でき、新製品PRとその他の既存市場掘り起こしにより通期目標達成を図る。

セグメント別の業績と見込み（検査機事業）

業績	農業関係では昨年度予算分を一気に受注、フィルム、電子部品関係では堅実に実績をあげた。受注残は積み上がったが、検収が遅れ売上高は目標を下回った。

受注は前年同期に対し66．5%増、売上は15．7%減

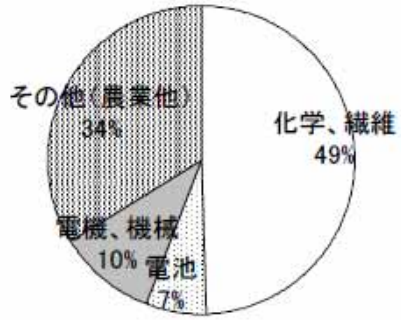
《検査機事業売上高推移》



（単位：百万円）

売上高	613
受注高	1,267
セグメント利益	35

《ユーザー業界別　売上構成比》

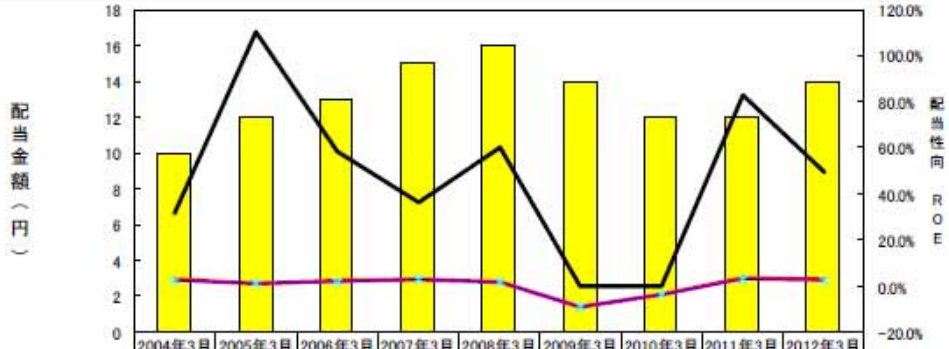


展望	農業関係は今年度予算が懸念、フィルム、電子部品関係では引き続き堅実に受注獲得を図る。重点事項を推進。

資本政策、株主還元

自己株式は機動的な資本政策の一環として、株式の流動性を考慮しながら取得及び保有自己株式について検討する

安定配当性向を確保（配当性向35%以上の維持を原則）
2013年3月期の中間配当金は8円／株を予定



	2004年3月期	2005年3月期	2006年3月期	2007年3月期	2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期	2011年3月期	2012年3月期
年間配当額	10	12	13	15	16	14	12	12	14
配当性向	31.4%	110.2%	58.1%	36.3%	60.5%	0	0.0%	83.2%	49.7%
自己資本収益率(ROE)	2.7%	1.1%	1.9%	2.8%	1.8%	−9.1%	−4.0%	3.2%	2.5%
総資本収益率(OA)	2.4%	1.0%	1.6%	2.5%	1.7%	−9.1%	−3.7%	2.9%	2.2%

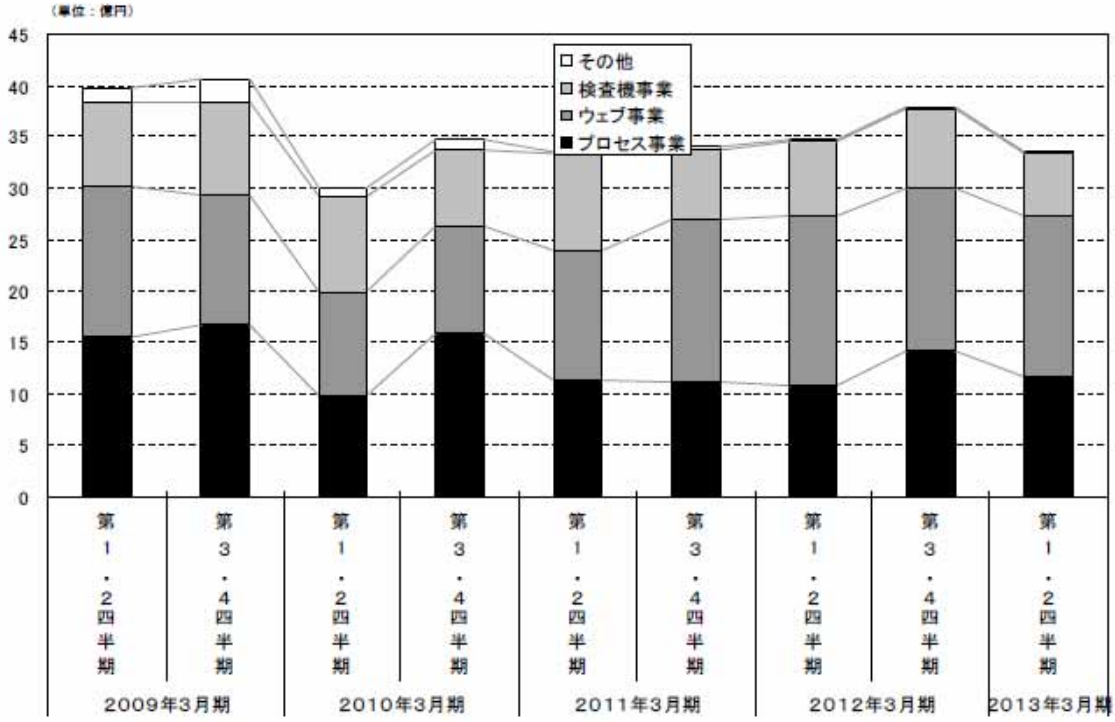
自己株式を利用して、従業員持株会ESOPを始めた。従業員のインセンティブ向上と福利厚生をはかり約30万株相当

22

補足説明資料

第2四半期実績と通期展望
中期3ヵ年計画の取り組み状況
会社概要

セグメント別の売上推移



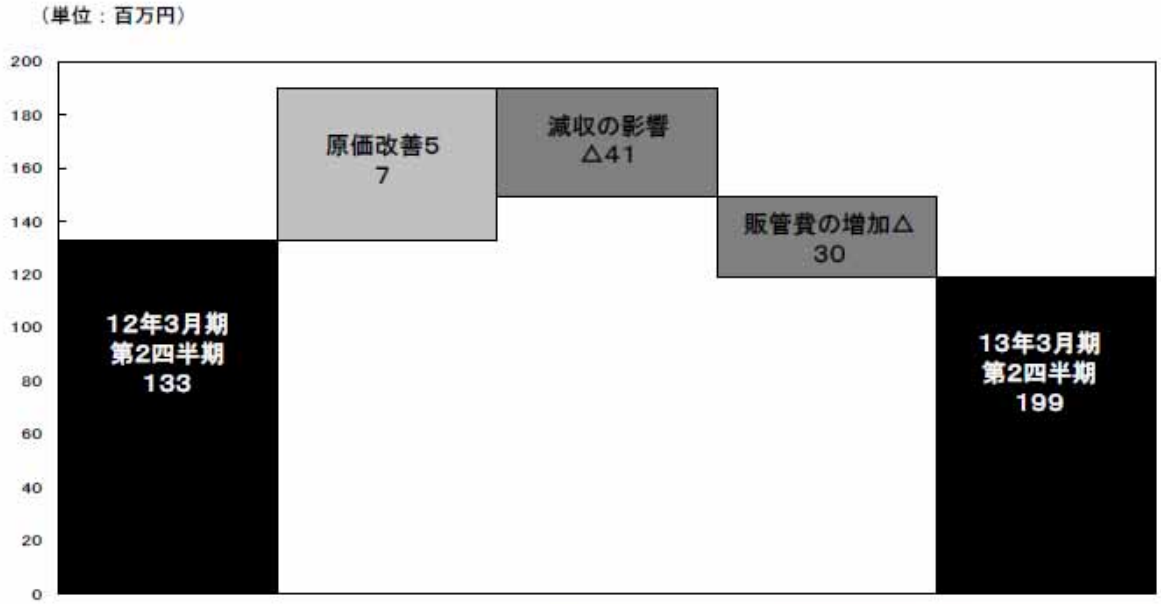
2011年3月期より印刷品質検査装置を検査機事業からウェブ事業に移管しています。

今期実績の補足説明（前年同期と比較した利益の変動要因）

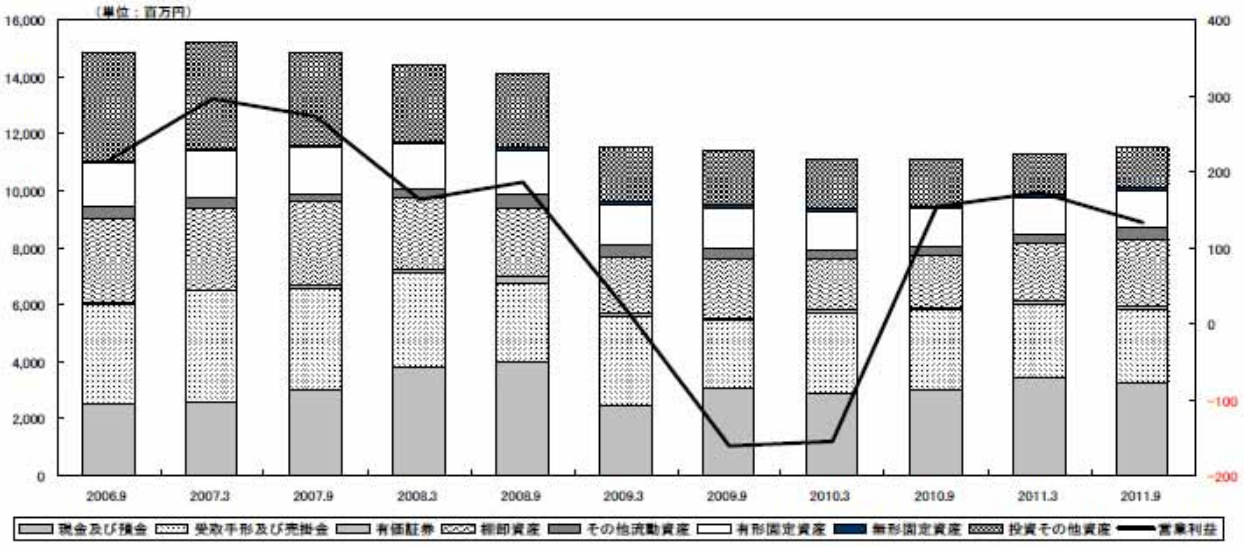
減収の影響：

原価改善：プロセス事業において追加費用の発生を抑えたことと、ウェブ事業においてコストダウン型新製品投入の効果と海外の現地生産の進展による

販管費増加：一時的な増加要因による



今期実績の補足説明（資産内容の変動）



現金：売掛金回収や在庫削減により効率性を高めるのと利益の計上により徐々に増えてきた。

売上債権：回収リスクの回避や効率化を図り、回収の早期化に努めている。

棚卸資産：標準在庫数や発注数量の見直しと滞留在庫の見直しにより節減。今期は受注増と検収の期ズレにより製品が一時的に増えている。

投資その他資産：満期償還等により投資有価証券の減少を進めてきた。今期は評価損により減少

補足資料

事業別

第2四半期実績と通期展望

セグメント別の業績と見込み（プロセス事業）

■国内

（実績） 新規設備計画、改修の大型案件は停止状態
改修まで既存設備を円滑に稼動させる事情からサービス関係は堅調、同様に
設備の部分的な改造等の中小案件を受注

（見通し） 国内鉄鋼業界の状況は、このまま続く見通し
（施策） 中小案件、サービス案件を中心に営業活動を継続
自動識別印字装置、ネットワーク対応の耳端位置制御装置の販売活動を開始し
更新需要の掘り起こしと今後の設備改修へのPR

■海外

（実績） 新規設備計画、改修の大型案件は停止状態、新規獲得は中小案件で

（見通し） 世界的な鉄鋼の供給過剰により生産調整局面にあり、設備計画はストップ状態
中長期的には、東南アジア、インドが成長市場
（施策） 今期に向けては中小案件中心に目先の獲得に努力。
ネットワーク対応の耳端位置制御装置や電磁式炉内CPCセンサ、自動識別印
字装置等のPRにより今後の受注獲得に向けて有利なポジション作りを進める。

セグメント別の業績と見込み（プロセス事業―市場概況）

■国内市場の回復はさらに遅れる見通し

世界的な景気停滞により鉄鋼素材が供給過剰で生産抑制

新日鐵と住友金属の合併をはじめとした業界の大規模な再編⇒業界レベルで設備の使い回し

地産地消に応じたアジア地区などの設備投資にさらにウェイト

サービスや一部の改修等小規模な案件は堅調

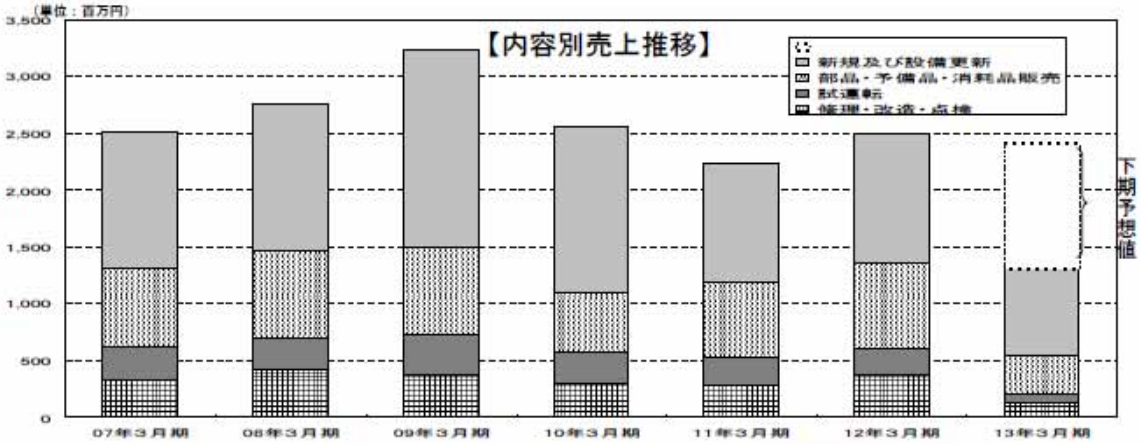
■海外市場は、設備投資回復は延期

中国：製鉄所は生産調整局面、全国的な製鉄所統廃合は進まず。

南部の大型プロジェクトは延期

韓国・台湾：国内案件はストップでインド等海外と提携のラインの計画

インド、東南アジア：自動車用鋼板ライン等日本のメーカーも協力した案件も動いている



セグメント別の業績と見込み（プロセス事業－製品施策の状況）

■自動識別印字装置による販売圏拡大

- 製鉄所の工程管理システムの中に自動識別印字装置を組み込む件

  大手鉄鋼メーカーとの共同でハンディマーカーを開発、人が携帯するコンパクトタイプのマーカー

  メーカーの製鉄所で新工程管理システムの一環として試験運用

  電炉メーカーや非鉄金属にも簡易マーカーとしてPR

- ロボット式自動識別印字装置

  当初はコストダウン型として海外向けに開発したが、国内でも従来方式に比べて印字品質が優れ、設置スペースが小さいというメリットから引き合いが来ている。

■マイクロ波溶鋼レベル計の欧州販売

- 過流式溶鋼レベル計の下位機種として国内でも販売

  マイクロ波（電磁波）を用いたレベル計を開発、海外で広く用いられている放射線式の置き換えと、非鉄金属など従来のレベル計が使用できなかった用途で可能性

■プロファイル計の販売開始

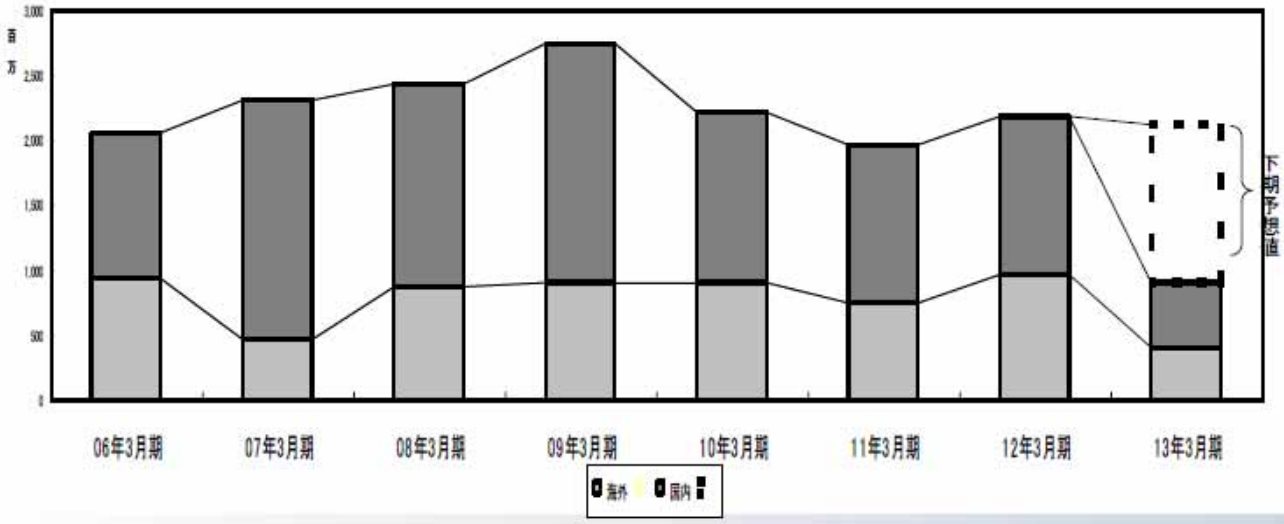
- 画像処理技術を応用した計測装置

  鋼板の幅計測や形状計測として、国内外製鉄所から引き合いが来ている。従来の製品に対して、システムがシンプルであり設置が容易であること、メンテナンスがほとんど不要であること、高精度であること、二次元情報が得られ高度な品質管理に応用できることより様々な用途への応用が期待されている。

セグメント別の業績と見込み（プロセス事業－海外施策の状況）

■ 海外施策の経過状況

- 現時点では景気状況が低迷しているため中期的将来への布石
- 国内鉄鋼メーカーの海外生産に応じた一定のスペックで価格を抑えた製品開発
  ロボット式自動識別印字装置、ネットワーク機能の耳端位置制御装置の販売開始
- 過流式溶鋼レベル計、マイクロ波レベル計の欧州販売
  マイクロ波による溶鋼レベル計を製品化、中級程度レベルでの浸透を図る。
  ドイツに駐在所開設、技術者1名を常駐させPRと既存品のサービス
  当面は知名度アップと技術説明に注力



セグメント別の業績と見込み（ウェブ事業）

■国内

（実績） 耳端位置制御装置、張力制御装置は堅実な受注・売上、しかし前年同期を下回る。
新型ライトガイドやセンサなど新製品投入の効果

（見通し） 第2Q後半よりタッチパネル関係の設備投資が夏の落ち込みから回復に転じた
ただし、長続きせず一時的現象と見ている。一定レベルの設備投資は続く。

（施策） 新製品のPR等を中心に、従来の活動を継続、堅実に実績を積み上げる。

（実績） 糊付け装置は検査装置の技術を取り入れたグルーモニターを中心に実績を伸ばした。

（見通し）着実に伸ばす期待が持てるため注力を続け、加えて製袋検査装置のPRを進める。

■海外（台湾、韓国、中国）

（実績） ウェブ事業内で台湾、上海子会社と組織的に統合した体制で、連携は進んだ。
先進国の景気低迷の影響により、受注・売上は前年同期に届かず

（見通し） 市場は回復に向かうものと思われる。←タッチパネル・メーカーの本格的競争開始

（施策） 従来施策を継続、するとともに新型ライトガイドの現地生産を早期に100%実現。

セグメント別の業績と見込み（ウェブ事業ー市場動向）

■第1～2四半期の実績は期首に予想したほど伸びなかった

タッチパネル、フィルム関係の設備投資は前期末から期首にかけて伸びたが、夏に一旦落ちた。

←タッチ・パネルは新機種の相次ぐ開発と目先の不確定要素（中長期的には市場拡大）

←台湾、韓国向け実績が前年同期を下回った

←検査装置は引合いが活発だった

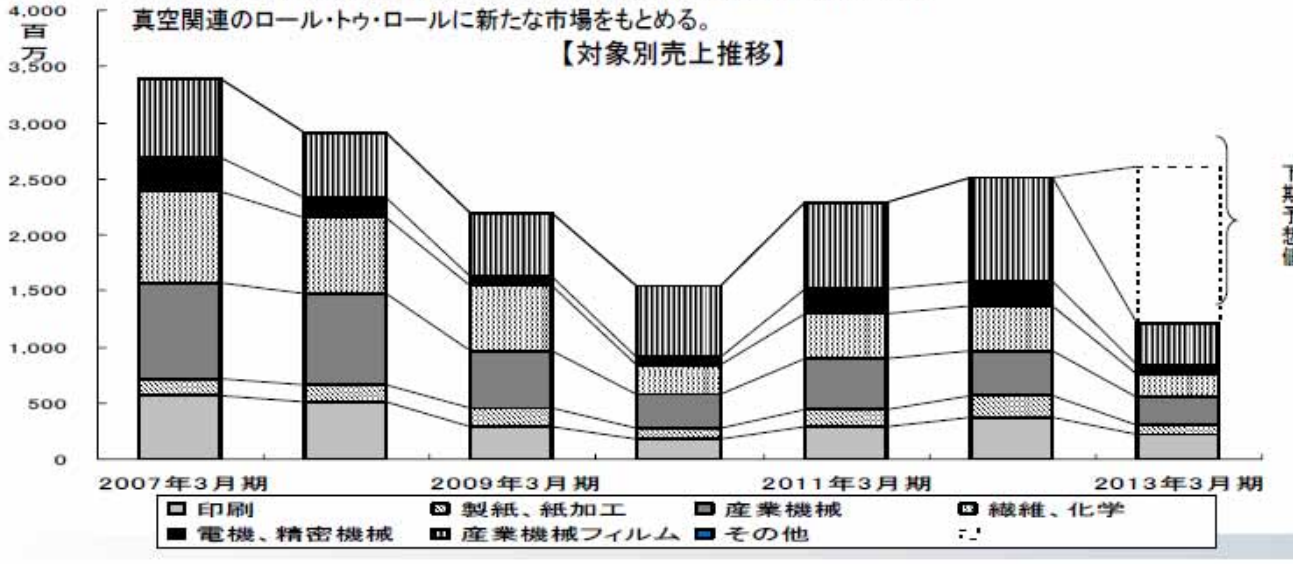
■第3四半期以降の動向

タッチ・パネル関係を主として電子部品の好調は続く

タッチ・パネルの設備投資は、再び伸び始める（今期中？）←9月後半より受注は上向き

今後も小規模な動向の揺れを繰り返すことが予想され、好調も長くは続かない

真空関連のロール・トゥ・ロールに新たな市場をもとめる。



セグメント別の業績と見込み（ウェブ事業ー施策の状況）

■新型ライトガイド（電気式耳端位置制御装置）

- 中国、台湾の子会社で現地生産し現地販売することを前提に開発・設計

  センサ、コントーラ、アクチュエータのシステムの内、アクチュエータの現地生産が未だできていない

  センサとコントローラを単独で先行して生産・販売を開始

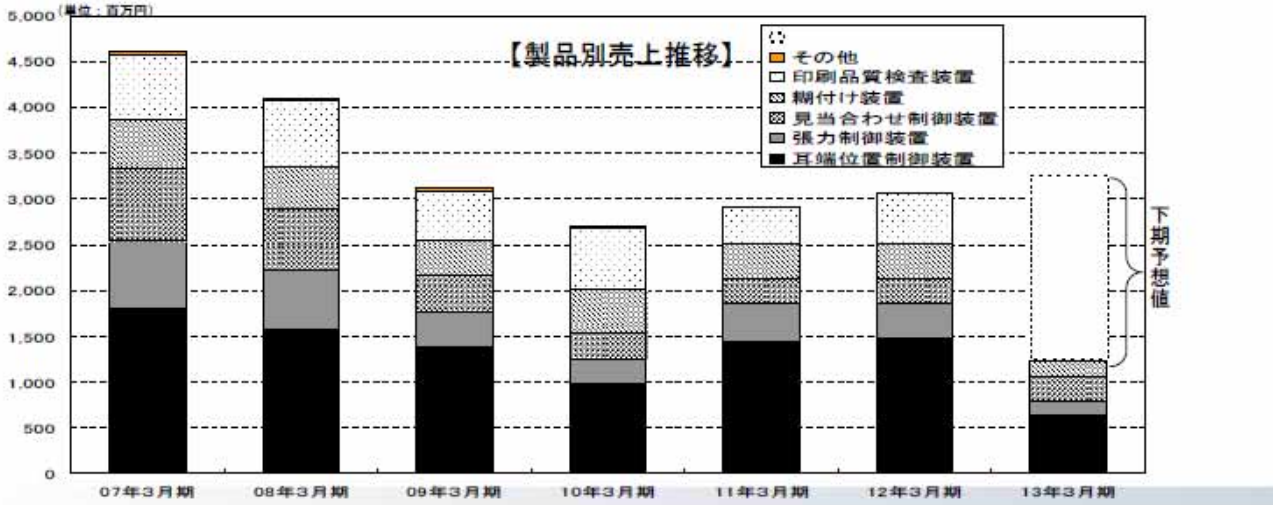
  ユーザーの評判は良好だが、景気状況と日中関係の影響を受けている

- 既存のセンサとの組み合わせで国内でも販売

■製袋検査装置

- 印刷品質検査装置の技術を応用

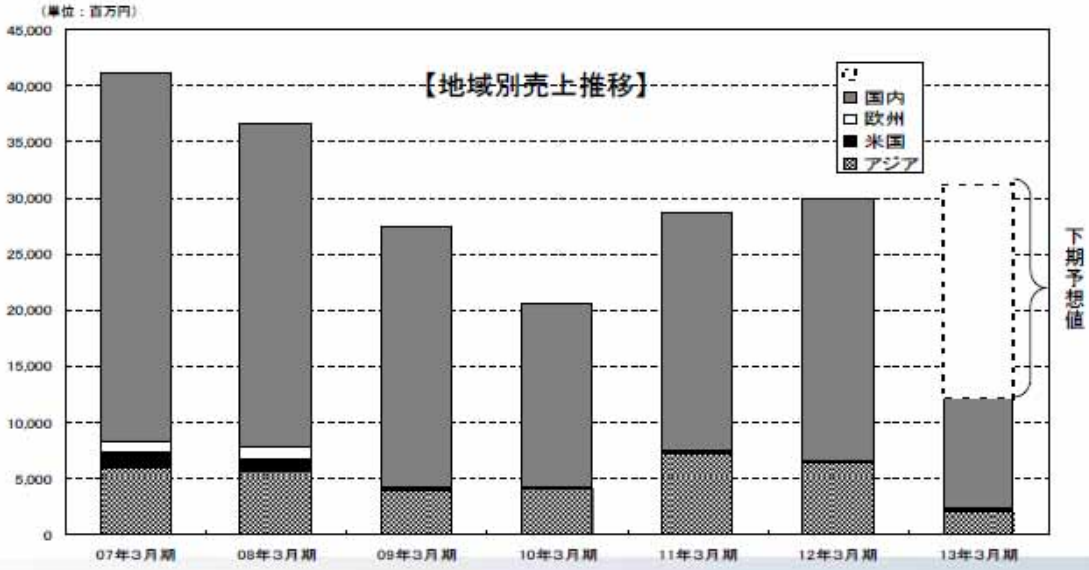
  食品パッケージップ等の袋状の糊付けムラによる密封度の検査。ユーザーの要望に応えたオンリーワン製品



セグメント別の業績と見込み（ウェブ事業―海外施策の状況　）

■　海外施策と経過状況

- 中国、台湾の現地生産体制の強化による現地生産、現地販売体制の推進
  ウェブ事業部の中に海外営業課を設け統括管理する体制としている
  上海の生産子会社の態勢には今のところ日中関係の影響はない
- 新分野の開拓
  中国、台湾、東南アジアを対象に印刷関係の制御装置、検査装置の市場展開を進めている



セグメント別の業績と見込み（検査機事業）

■無地検査装置

（実績）　前期に営業体制を変え、無地検査装置に集中した活動が好結果を招いている。
顧客要求の高まりにスペックの高さで応え、他社の顧客奪取が徐々に進んだ。
電極シート検査装置は、海外（欧州）からもリピート注文があった。

（見通し）　検査装置に対する設備投資は制御装置ほどの機敏性はなく、比較的慎重に進むため、継続的に間断なく続く見通し。大型電池関係は、量産体制が十分に固まっていないが設備計画が具体化してきている。

（施策）　タッチパネル向けや電極シート向け検査ニーズに応じた、より高機能、高精度の能力をもつ新型無地検査装置を開発中。販売開始は来期の予定。

■農業関係

（実績）　前期補正予算実行によるみかん等の大型案件を一気に獲得した。技術面、ユーザーへの対応による優位性により、目指す案件は確実に獲得している。

（見通し）　補正予算成立による即時実行の案件が待機している。

（施策）　待機案件に関わり受注獲得を確実にするとともに、落葉果実向けの活動を進める。

セグメント別の業績と見込み（検査機事業ー市場動向）

■無地検査装置

フィルム、電子部品関係の設備投資は前期並の水準を継続

中小型パネル向けの検査は、スマートフォンやタッチパネルの新機種販売や高精彩画面への要請から、

従来以上の機能と高精度を要求　　⇒無地検査とパターン欠陥検査

⇒インライン、高速対応

リチウムイオン二次電池向け電極シート検査装置は検査要求が高度化

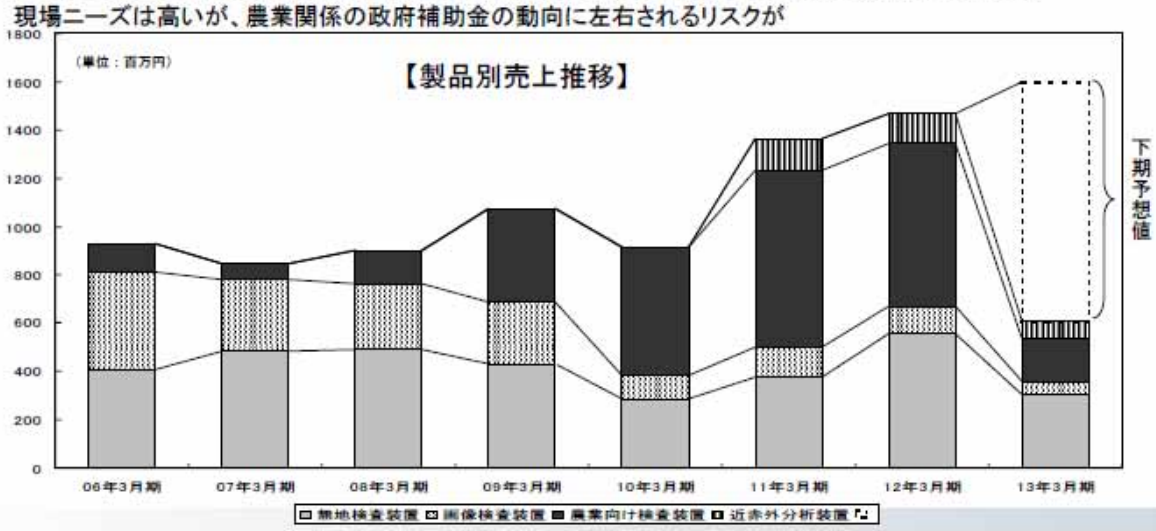
リチウムイオン二次電池の量産化への移行には時間がかかっている。

⇒高精度の検査を広範囲で漏れなく、高速対応

■農業向検査装置

みかん選果場の大型設備更新の計画は未だ数件あり、同程度の規模で落葉果実の設備がこれから等

現場ニーズは高いが、農業関係の政府補助金の動向に左右されるリスクが



セグメント別の業績と見込み（検査機事業ー製品施策の状況）

■無地検査装置

- 新型機の販売開始は来期から

  従来機を照明部のコストダウン等で受注獲得を図る。

■リチウムイオン二次電池向け電極シート検査装置

- 当面の課題に対して

  競合の参入や先行優位性の薄れはあるが、リピート受注件数が増えてきた

  電池の本格的量産に向けて一段のレベルアップが求められていて、現状では当社を含めユーザー要求に100%対応できる検査装置はない。

- 施策の状況

  無地検査装置の新型機の投入は来期になるため、電極シート検査装置の新型機も来期以降

■農業向検査装置

- 米国市場進出の経過状況

  今年中にデモ機として1台を試験的に稼動させ、体験してもらう。

  新たに、米国での8ラインの小規模選果場からも引合いあり。

- 魚の選別

  気仙沼漁港の復興事業として、水揚げされるサバをマサバとゴマサバに機械により選別する

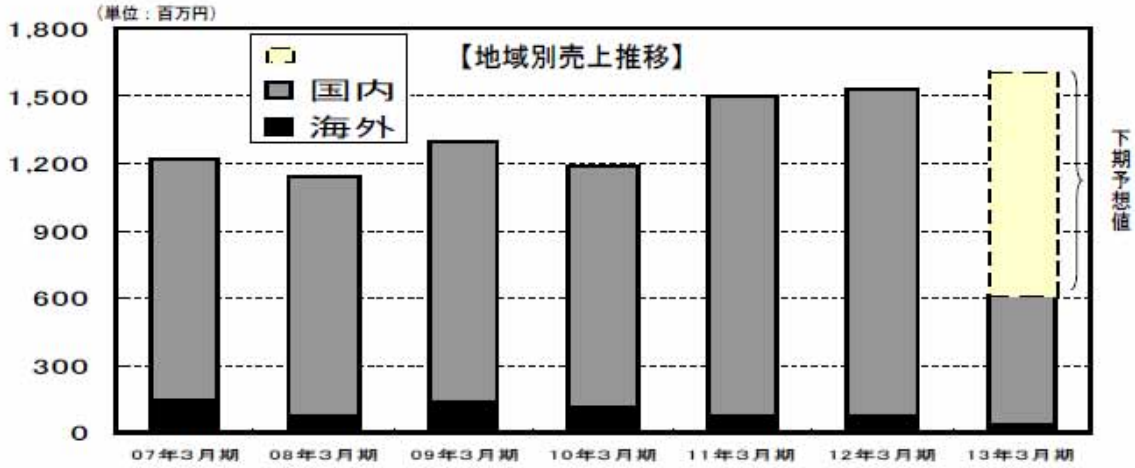
■コンタミネーション装置

- 主に自動車向け不純物検査装置は、自動車減産に影響を受けた。

セグメント別の業績と見込み（検査機事業―海外施策の状況）

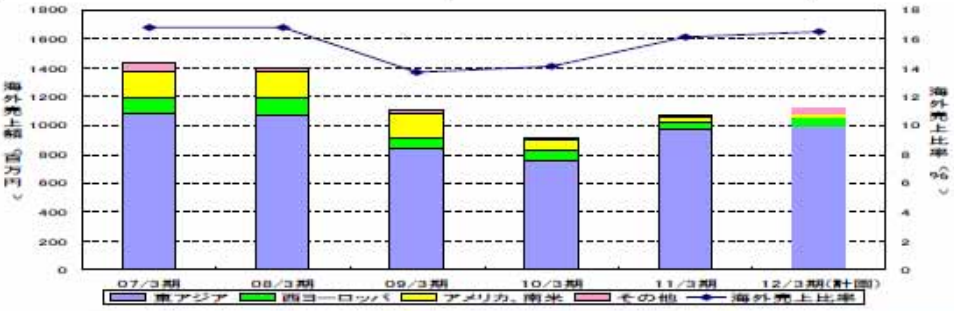
■ 海外施策と経過状況

- 新型無地検査装置の開発
  来期より販売開始、能力アップした無地検査装置で海外でのユーザー要求に余裕をもった対応が可能となる。
- 無地検査装置、電極シート検査装置を海外に向け販売
  欧州（ドイツの電池メーカー）に電極シート検査装置のリピートオーダー受注
- 農業向検査装置の海外展開
  米国進出に注力。現時点では受注を欧州のライバルと競っている



今後の海外施策

	ウェブ事業	検査機事業	プロセス事業
全体	アジア市場の成長を取り込んでいく	引き合いには地域を問わず取り込む	アジアの成長を取り込むと同時に欧州でも展開
中国	中国仕様のウェブガイド（耳端位置制御装置）を製作、販売し、機械メーカー等着実に伸びている。 上海子会社の董事長に海外営業担当執行役員が就任し、営業強化	無地検査装置、電極シート検査装置への引き合いが増えてきており、売り込みを図っている	●現地代理店との関係を強化。 ●インドの鉄鋼向け自動化設備メーカーとの協力関係強化 ●ヨーロッパ、米国は特殊製品の販売を継続。 ●ヨーロッパで渦流式溶鋼レベル計を販売開始
韓国	台湾、上海との協力体制で競争力を高め業績を伸ばしている。	農業向け検査装置を受注。欧州の選果機メーカーとの協力関係	
台湾	子会社での内製化が進み、着実な販売実績と相俟って収益に貢献。上海との協力体制が進む。		
その他		電極シート検査装置を前期にドイツで受注、今後は拡大を図る	



補足資料

中期3ヵ年計画の取組状況

中期3ヵ年計画の状況

2013年3月期は当初の目標通りの実績見込み。
2014年3月期以降の中期的見通しは計画通りか若干上振れの見通し
　プロセス事業の落ち込みを検査機事業の伸長でカバー
　ウェブ事業は堅調を続ける

	短期	中期
プロセス事業	→	↘
ウェブ事業	→	→
検査機事業	→	↗
全体	→	→

主要施策の見通し
- 海外展開は生産力増強は進むが、アジアの環境要因から売上実績は停滞
　農業関係の海外展開、欧州への展開も本格化は次期中期計画
- 新製品のラインアップは、新型無地検査装置の市場投入で出揃う
- 新市場開拓は着々と進んでいるが、景況の影響で業績への貢献はこれから

中期3ヵ年計画の成長ビジョンの修正（プロセス事業）

プロセス事業の成長ビジョン

現状の苦境を脱し、安定的な収益と成長を図る。

- 国内製鉄所の既存設備の大型改修や更新が先送りの模様。
  国内設備更新のニレコ受注の可能性は高く、一定規模の受注高が期待できる。
  設備更新の時期ではあるが景気状況により計画は延期されている模様。
- 再開の動きがあった中国等のアジア諸国の設備計画は一旦停止の模様。
  日本のプラントメーカーが情報収集と受注に向けた活発な動きを見せていた。
  価格競争は相変わらずだが、機能や品質といったニレコの強みを出せ、受注獲得に期待
  ←新製品ラインアップで価格競争力もアップ
  景気減速により計画は停止状態。
- 渦流式溶鋼レベル計を中心に連続鋳造工程向け製品をヨーロッパ経由で海外へ。
  渦流式溶鋼レベル計を欧州で直接販売を開始。連続鋳造関連メーカーから販売提携も
  マイクロ波を用いた溶鋼レベル計を新たに開発。精度では渦流式に劣るが価格や使いやすさに特徴。高級向けは渦流式、中級向けはマイクロ波と階層別に売り込み。
  特に中級向けは放射線方式からの切り替え需要を狙う。
  ヨーロッパのメーカーの連続鋳造機にセットされることで全世界への拡販を狙う。
  溶鋼レベル計を糸口に連続鋳造工程の計測装置や制御装置を開発し、受注拡大を目指す。

※赤字が前回への変更事項

中期3ヵ年計画の取組状況（プロセス事業）

海外市場はアジアを重点に販売活動を続け、更新需要を掘り起こし設備投資再開への布石を打つ。
中国では製鉄所統合後に、設備投資再開が計画されている。
欧州での渦流式溶鋼レベル計の販売活動を推進する。

・中国は欧州への輸出低迷等で成長が減速し、鉄が供給過剰。
期待していた中国での次期設備投資計画は先送りとなった。
⇒日中関係の冷え込みの影響で製鉄所の設備計画の入札が出来ない。

・欧州での過流式溶鋼レベル計
ドイツ東部のデュッセルドルフに駐在所を設置、技術関係要員1名常駐
現地製鉄所の技術者へのPR、現地提携メーカーへの技術指導

国内市場シェア水準を維持し、減少を最小限にとどめる。
震災復旧で遅れていた高炉改修の計画を捉える。
サービス強化により現場での改修や更新ニーズを掘り起こす。
新分野の自動識別印字装置により、新たな市場への展開を図る

・製鉄所設備の大規模改修計画は、生産量が落ちている中で、ストップ状態。
・新分野の自動識別印字装置、ハンディマーカーは鉄鋼会社と共同開発したため一般向け販売についての交渉が合意に達し、これからPRを本格化
・サービス、中小規模の改修は積極的に受注を獲得している

中期3ヵ年計画の成長ビジョンの修正（ウェブ事業）

ウェブ事業の成長ビジョン

既存ビジネスの維持を続け、新市場展開で収益をアップ。

- タッチパネル関係の好調は当分続き、確実に受注を獲得する。
  新型ライトガイドを開発し、市場投入。
  リチウムイオン二次電池や薄膜式太陽電池向け制御装置も本格量産のための設備投資に期待。
- 中国、台湾、韓国での受注拡大により、事業の成長を図る。
  上海、台湾の子会社が協力して製品の生産を進める。
  ⇒コストダウン、現地ユーザーへの素早い対応
  韓国代理店は積極的な活動により受注獲得高を伸ばしている。
  新型ライトガイド、テンションシステムを現地生産、現地販売により受注拡大を図る。
  短期的には景気状況が厳しくなってきているため中期的な視野で活動
- 検査装置の技術を利用した製品を開発、市場投入により新市場獲得。
  グルーモニターは順調に受注を伸ばしており、営業活動を進める。
  検査装置の応用による多機能のセンサを開発し、有機EL、プリンタブル・エレクトロニクスに分野への進出を狙う。

※赤字は前回への修正

中期3ヵ年計画の取組状況（ウェブ事業―全体施策）

既存市場では競合のシェア奪取により独占的優位を目指す。高機能フィルム業界は中小型パネル向け及び電池関係が好調で、国内及びアジア向け両方を狙う。
中小型パネル向け部材及び電池関係の設備に向けて新型ライトガイド（電気式耳端位置制御装置）を投入し、シェアアップと受注拡大を図る。
新型ライトガイドは簡易型を海外子会社の現地生産を行い、海外での受注拡大を狙う。
超音波オートワイドセンサ、新型ラインフォロワセンサ等のフィルム向け新製品のPRを進める。
張力制御装置の新型センサTSAシリーズはMBシリーズに代わる主力センサとしてシェアアップを狙う。
競合が少ない製袋向け検査装置で新たな市場を開拓する。

中小型パネル及びリチウムイオン二次電池の設備投資は全般的に顕著な伸びを示さなかった。そのため市場の伸びは頭打ち。

- 新型ライトガイドは電動アクチュエータの中国生産が進んでいない。
  アンプ、センサの中国生産を先行して行い、現地生産・現地販売の再構築を行う。
  特にセンサ類は国内販売も好調
- 張力制御装置の主力センサは、従来のMBセンサの知名度が高いため、切り換えはこれから。

新市場展開により成長性の期待できる市場での中長期的な販売拡大を図る。

電池関係、有機EL、製本・製袋関係へのPRは継続して行っている。
製袋向けの検査装置を来期初には販売を開始予定。

中期3ヵ年計画の取組状況（ウェブ事業―分野別施策）

NIRECO

販売体制

営業に人員を投入すると共に、1人当たりの訪問件数を増やし、従来からのエンドユーザーの現場との直接対話をさらに進める。
定例的に営業と技術のコミュニケーションを行い、ユーザーへの提案力を高める。

継続的に取り組んでいる。

新製品の投入とPR

高機能向けで、ミドルレンジを対象として視野に入れた新製品を開発（アジアでの地産地消を前提に設計）、最近の新製品とのラインアップでPRを進める。

継続的に取り組んでいる。新型ライトガイドのセンサとアンプを製造、販売開始

海外体制

台湾ニレコと上海ニレコとで得意分野で協力体制をかため、アジア地区内での地産地消体制を強化。これに韓国での販売代理店も組み込み、子会社で生産した製品を韓国でも販売するなどアジア全体で製品の流れを活発にさせる。

継続的に取り組んでいる。新型ライトガイドのアクチュエータの生産が遅れている。また、上海の子会社は、現時点では日中関係の直接的影響は現われていないが、今後の懸念材料。

中期3ヵ年計画の成長ビジョンの修正はなし（検査機事業）

NIRECO

検査機事業の成長ビジョン

下の各主要製品を積極的に伸ばし、成長のエンジンとなる。

- 無地検査装置は国内では他社のシェア奪取、アジアへ販売地域を広げ受注拡大。
  次世代無地検査装置の開発、市場投入によりタッチパネル向け検査を能力差によって他社を跳ね除け押さえる。
  旧世代無地検査装置を価格を抑えてアジア市場に投入する。
- 電極シート検査装置は車載用大型リチウムイオン二次電池の本格的量産の波に乗り、単独で事業部を起こせるビジネス規模を目指す。
  既に納入したユーザーが本格的量産に入り大型のリピートオーダーを確保する。
  次世代無地検査装置をベースに機能アップ、精度アップによって、本格量産以降により新たに発生する検査ニーズにいち早く対応し、導入時の受注を押さえる。
  国内外の別なく、導入時の受注獲得によりリピートオーダーによる拡大を狙う
- 農業向け検査装置は、選果場設備案件シェアを押さえ、海外と水産物等の新たな市場展開を図り、主要3事業と肩を並べるビジネスへの成長を目指す。
  生傷・腐敗センサの優位性は維持、知名度が高くなり、さらに強力な武器となる。
  単年度の農業補助金予算が削減されたことにより選果場の設備更新時期が分散化し、ニレコの占有率が高まった。
  農協関係から民間企業による農業事業、農産物の加工品等の新たな市場への展開。
  海外の商品性の高い農産物を新たな対象に加える（韓国、中国、米国）。

中期3ヵ年計画の取組状況（検査機事業―製品別施策）

無地検査装置（Mujiken）
能力を格段に向上させた新型機を開発、市場に投入する。
利益率の改善を図る。

新型無地検査装置は来期初より販売開始の予定。
LED化により照明部の原価を50%削減。価格競争に負けての失注が出てきている。

電極シート検査装置（e-Flexeye-RB）
新型無地検査装置をベースに新型機を市場に投入する。

ベースとなる新型無地検査装置が来期初より販売開始の予定のため、新型機投入は来期となる。

青果物用検査装置
内部品質センサを中心に海外の農産物検査に進出を図る。
水産物の検査への展開を検討する。

センサの内部品質デモ機を1台カリフォルニアに貸与し、試験的に使用してもらっている。
水産物の検査は震災復興の一環の漁港施設整備としてスタート。サバをマサバとゴマサバに分別する作業を行うことになっている。

中期3ヵ年計画の取組状況（検査機事業―分野別施策）

販売体制
高機能の新製品を投入することにより既存ラインでも他社からの切り替えを促進する。
リピートオーダーが増えてきており、確実に受注を獲得する。
営業体制の整備強化に継続して取り組む。
農業向け検査装置の営業員を増員。

無地検査装置や電極シート検査装置は各社の技術的な性能差がなくなり価格競争の様相。
価格競争に負けての失注が出てきている。
営業体制は無地検査装置と電極シート検査装置に絞って活動。農業関係は別の営業が行う体制で人員を増強した。

利益率の改善
2012.3月期の利益率が悪かったのは、他社の装置が入っているユーザーでニレコに乗り換えてもらうため、機能要求に応え開発費用が嵩んだため。リピートオーダーを獲得することで償却できる。
照明部のLED化をさらに進める。

他社との受注競争が価格競争の様相となってきて、原価改善しても価格の下ぶれにより、効果がなかなか上がらない。
LED化を進め照明部の原価を半分に改善。

参考―農業向け検査装置

主に農協の共同選果場で、各農家から持ち込まれた果物や野菜を大きさ、形状により選別するための検査を行う。農産物を6方向からカメラで画像データとして取り込み、パターンマッチングの応用で条件に従って仕分けする。

●外観検査装置

大きさ、形状、色合い等で農産物を選別し、キズなどの不良品をチェックする。

※生傷腐敗センサ

柑橘類等の皮の表面の隠れた小さな傷を検知する。このキズは出荷後の痛み（腐敗）のの主な原因となる

●内部品質検査装置

レーザー光を透過させて、光の屈折度により農産物の糖度や酸度を一瞬で測定する。

1990年代のウルグアイラウンドにより農産物の貿易自由化が進むことになり、当時の日本政府は農業強化策を講じた。そのなかに機械化が織り込まれ、共同選果場の機械化に様々なメーカーが参入した。その後、10年以上の間で、もともと市場に成長性がないため多くのメーカーが撤退し、ニレコと数社だけが踏みとどまった。

この間、ニレコは技術開発と顧客との信頼関係構築に努め、市場内圧倒的優位を獲得した。

3～4年前から、1990年代に進められた機械化の更新期を迎えたのを機に、各所の選果場でニレコ製の検査装置に一斉に切り替わるように受注が伸びた。

当初、機械更新の時期は一時的と思われたが、政権交代による農業予算方針が変更となり、機械化に対する予算額が削減された結果、更新時期が結果として分散化し、ニレコに有利に働いた。

会社概要

会社概要

会社名	株式会社ニレコ
証券コード	6863　JASDAQ（1989.10上場）
所在地	〒192-0032 東京都八王子市石川町2951-4 TEL：042-642-3111
事業内容	計測・制御機器の製造販売
設立	1950年11月
代表者	代表取締役社長　川路憲一
資本金	3,072百万円
時価総額	43億円
株主数	1,178名（11.3期末）
従業員数	355名（11.3期末）

【八王子事業所】

営業所等

大阪営業所
〒542-0081　大阪市中央区南船場4-8-6　渕上ビル

九州営業所
〒802-0001　北九州市小倉北区浅野1-2-39　勧和興産　浅野ビル

会社概要

ウェブ（web）コントロールの総合メーカー

Webとは、英語の織物とかロールをさす言葉です。
コンピュータ・ネットワークで使われるWeb（蜘蛛の巣）とは違う意味

工場の様々な生産ラインで元素材をウェブの形で取り扱うケースが多く、フィルム、製紙、印刷から鉄鋼まで幅広い分野で行われています。
近年では、液晶や電子部品の材料となる高感度フィルムや太陽電池の素材などもウェブの形で取り扱われています。

工場内ではウェブ特有の各種の自動制御を行っています。これをウェブコントロールといい、近年、生産性向上のためラインの速度は上がり、一方で品質の向上と安定操業の必要も高いので、ウェブコントロールのニーズは増えています。

会社概要―ニレコの特徴

独自の技術を持った技術Oriented企業

製造現場において、薄鋼板、紙、フィルム等の材料は帯状の形で用いられるが、これらが製造ライン上を正しく運ばれるように制御する装置を製造しています。
そのために、独自の「測る、解く、制する」技術を追求しています。

実際の技術的な強みとしてあげられるのが、センサとアクチュエータで、薄鋼板や紙などの帯状の製品をコントロールする自動制御装置の"目"と"手足"にあたる部分です。

個性的な製品で市場を創造しトップシェア企業

ニレコの製品の開発当初は国内に類似のものがなく、産業界の潜在的な需要を掘り起こし、現在に至るまでトップ企業として新たな市場を開拓しています。

会社概要―事業の概要

産業用材料の「自動制御」と「検査装置」の製造、販売

プロセス事業

油圧による風量、流量制御　プロセス制御

炉の空気量調節

製鉄所の高炉、化学工業の炉、火力発電所、清掃工場

ウェブ事業

生産ラインでのシート状物体の制御

生産ラインでシート状の素材がスムーズにライン上を流れ、加工（切断、接合、印刷、塗布、巻取など）を正確に受けられるようにコントロールする。

- 位置⇒耳端位置制御、見当合わせ制御
- 張り⇒張力制御
- その他

鉄板（薄板）、印刷、製紙、FPDや電気部品の材料となる高機能フィルム、汎用フィルム、ゴム

検査機事業

画像処理

生産ラインの各種検査装置

- 汚れ、キズ
- 欠陥
- その他

農業、各種研究施設

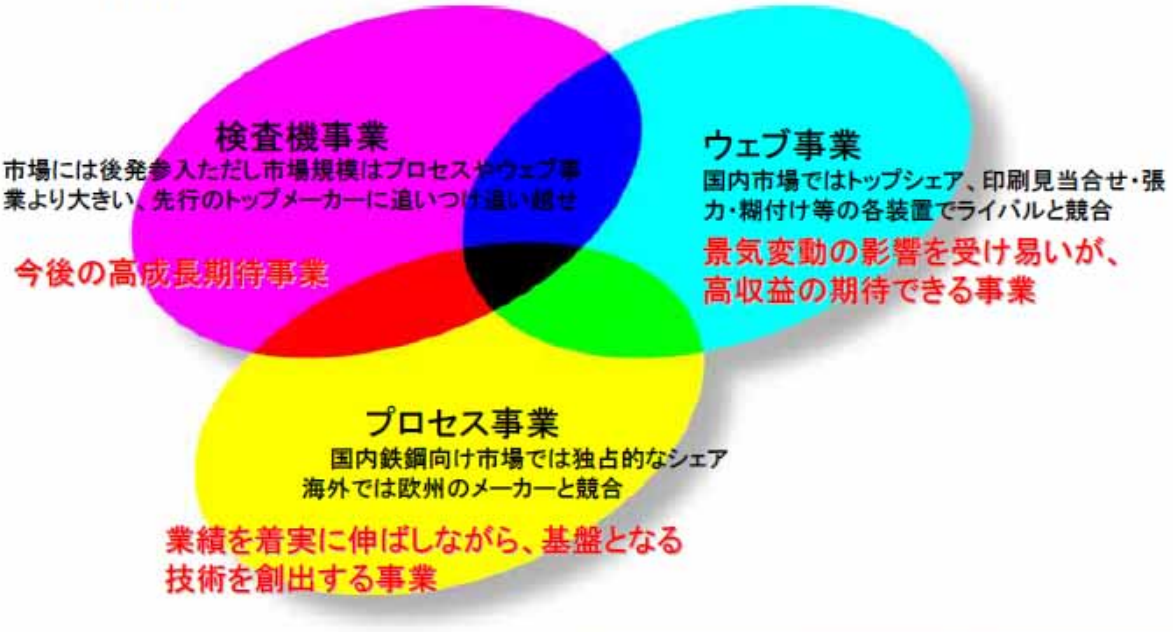
会社概要―主要事業と製品類

主な事業と製品類

事　業	製品類	主なユーザー
プロセス事業	プロセス制御装置 耳端位置制御装置（EPC） 自動識別印字装置（マーカー） 渦流式溶鋼レベル計 板幅計	鉄鋼、非鉄金属 電力、ガス 化学 公共機関
ウェブ事業	耳端位置制御装置（EPC） 張力制御装置 見当合わせ、切断制御装置 糊付け装置 印刷検査装置（BCON）	印刷 製紙、紙加工 フィルム、繊維、化学 機械
検査機事業	無地検査装置（MujiKen） 電極シート検査装置（e-FlexEye） 画像処理解析装置（ルーゼックス） 青果物外観検査装置 近赤外分析装置（NIRS） 分光式計測装置	フィルム、化学 包装材 農業 石油、製薬、食品 化学、精密

会社概要―主要事業の環境と位置付け

プロセス事業は、国内ではパイオニアとしての当初から市場を独占してきました。鉄鋼メーカーからの高度な要求に応えるために開発した技術的達成は、ニレコの他の事業に応用され新製品や新事業創出の基盤となりました。ウェブ事業は、印刷・製紙・フィルム・繊維・ゴム等様々な対象に向けて広く展開しています。シート状物体の制御という単一市場を特定することはできませんが、個々の市場のトータルを見るとニレコは、個々にはライバルと競いながらも、トップシェアの地位にいます。検査機事業の市場は他の事業に比べて最大規模となりますが、後発参入のため市場では第3位の位置にあって競争に打ち勝つ努力を続けています。



連絡先

株式会社ニレコ

担当：片山

TEL　:042－642－3111

E-mail：yasuo.katayama@nireco.co.jp

Facebook： http://facebook.com/yasuo.katayama

住所　：　〒192－0032

東京都八王子市石川町2951－4

HP：　http://www.nireco.com/

本資料に掲載されている、ニレコグループ（株式会社ニレコ及び子会社に関する記述の部分は、本資料の作成時において入手可能な情報から得られた当社グループの経営陣の判断に基づいております。

しかし、業績予想の数値は実際の業績と異なるリスクを内包していることにご注意下さい。当社グループは、常に最新の情報提供に努めますが、実際の業績は、業績予想以後に実際に生じる市場動向、経済情勢、消費動向、社内事情等の影響により、当社グループの経営陣が予想した数値と大きく異なる可能性があります。